

国語学力の中核となる関係把握力を育てる実践研究

柴田学園大学生生活創生学部 こども発達学科 船水 周

TEL 0172-33-2289 FAX 0172-33-2486

e-mail h-funamizu@shibata-univ.net

Web shibata.ac.jp

キーワード	国語学力 パラグラフ	国語で思考する能力 主張・理由・証拠	関係把握力 ナンバーリング	関連指導 比較・対比
-------	---------------	-----------------------	------------------	---------------

昭和 52 年版学習指導要領を取りまとめた藤原宏(1984)^{注1}は、国語学力の核心は国語で思考する能力であり、この能力の更に中核をなすものが「関係把握力」であることを提唱した。

注1『思考力を育てる国語教育』藤原宏編著(明治図書 1987)

この関係把握力において、関係させるべき対象は以下に示す、A~Dの要素である。

- A 言語(記号) 1 語 2 語句 3 文 4 文集合 5 文章全体
- B (Aが表す)事物・事象・現象など
- C 表現者の、考え方、感じ方、思想、論理など
- D 理解者の、経験、考え方、感じ方、思想、論理など

したがって、A~Dの要素を正しく適切に結び付けられるように指導し、それらの結び付け方の正確度と適切度を高め、国語学力の向上を図る「国語科の授業」が追求されている。

言葉による見方・考え方を働かせ、国語学力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」^{注2}と規定して、物事を言葉で捉える関係把握力を関連指導で効率的、総合的に身に付けさせる。一般的に学習指導は理解(聞く・読む)活動と表現(話す・書く)活動を別々に行うので、指導の重複が出やすい。関連指導は理解(聞く・読む)活動と表現(話す・書く)活動の指導事項(転移要素)の精選に手間がかかるものの、理解力と表現力が同時に鍛えられる。つまり準備や工夫を要するが、学習の効率化や転移が図りやすい。注2『小学校学習指導要領 国語』(平成 29 年告示)

【関係把握力を磨く主な実践方法】

(1)パラグラフを意識付ける

関連指導で説明的文章を書かせる場合、理解の学習で得たパラグラフの構造や構成、記述の仕方(説明・説得順序、接続語)を模倣させる。

(A)パラグラフのイメージをつかむ 〈文番号=文の役割〉

①〇〇〇。②〇〇〇。③〇〇〇。④〇〇〇。⑤〇〇〇。……

(B)パラグラフの原則を知る 字数は 200 字程度 4~5文で構成

①はポイント文(冒頭:主張・結論) ②以下はサポート文(説明:根拠・理由等)

(2)主張・理由・証拠の3段で秩序立てる

問い 本当に〇〇か? どちらが●●か? なぜ▶▶か?

主張(結論):私(それ)は~ 理由(論拠):理由は~ 証拠(事例):例えば~

(3)ナンバーリングで説得する

理由は〇つある。1つめは~、2つめは~、3つめは~、……

(4)比較・対比で関係を把握する

対立する概念、物事の before/after を比較して、共通点と相違点を考える。

